

【所属名：総務部企画定住課】

【会議名：第2回糸魚川市総合計画審議会】

会 議 録

作成日 令和2年12月25日

日	令和2年12月23日(水)	時間	13:30~16:00	場所	市民会館 3階会議室
件名	・審議事項 (1)第2次総合計画の評価について (2)第3次総合計画市民等アンケート結果について (3)審議会委員意見シートの集約について				
出席者	【委員出席者 23人】 伊藤麗、齋藤伸一、渡邊秀幸、榎木園薫、青木和人、松本香織、猪又千恵子、森尻克志、小野雅子、木嶋貢、松木美沙子、猪又史博、渡辺康太、保坂史子、龍見和弦、磯貝誠、稲葉淳一、鈴木秀城、猪又直登、山岸喜治、斉藤直文、田中昌美、水嶋聡 【委員欠席者 4人】 榊厚志、小林修、丸山理恵、山本習子 【事務局出席者 6人】 五十嵐総務部長 企画定住課（渡邊課長、中村課長補佐、内山係長、松澤主査、縄主査）				
	傍聴者定員		— 人	傍聴者数	— 人

会議要旨

<p>1 開会 (13:30) 企画定住課内山係長により進行。 ・事前配付資料、当日配付資料の確認。</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 審議事項 ・以降、総合計画審議会条例第6条第1項の規定に従い、鈴木会長に議長をお願いし進行。</p> <p>(1) 第2次総合計画の評価について ・企画定住課縄主査から、資料に基づき説明。</p> <p>【質疑・意見】 (委員) ・評価表の1ページ、市内病院出産割合を見ても、令和元年度の実績で約5割である。市内での出産割合の向上は、第1次総合計画から引き続きの課題である。なぜ糸魚川市で産まずに、よそで出産するのか。その原因をよく調べないと解決には至らない。原因を精査してほしい。 ・17ページの高齢者の生きがいつくりの充実に関連して、65歳以上でも働いている人が多</p>

くいる。働かないと生活できない人もいるのだろうが、高齢者でも働きやすい環境の整備を進めてほしい。それと、シルバー人材センターへの助成とあるが、シルバーでは会員の確保が困難となってきたので、課題に追加してもらいたい。

(事務局)

- ・ どうして糸魚川で出産しないのか、またはできないのか、しっかり分析し、評価に記載したいと考えている。
- ・ シルバー人材センターの会員の確保は厳しい状況と認識している。65歳以上でも再雇用で働いている人も大勢いる。現状をしっかりと確認するとともに、シルバー人材センターの魅力や情報発信も進めるなかで、会員確保に努めていきたい。

(委員)

- ・ 1 ページ目の市内病院出産割合について、自分の周りの母親たちからは、一人目は市外で産み、二人目、三人目を市内で出産するという話もよく聞く。指標にある市内出産割合の数字も第一子なのか、それ以外なのかでだいぶ変わってくると思うので、その辺の分析もしてもらいたい。
- ・ 24 ページに、新エネルギーについて可能性調査の段階から、計画的に推進すると前向きに書かれていてよい。市民にもなかなか浸透していないが、新エネは今後重要性が増すと思われるので、具体的に進めてもらいたい。
- ・ 25 ページの誘客・宣伝活動の促進の今後の方向性で、「食を通じた情報発信」と書かれているが、糸魚川の魅力は食だけではない。人も魅力的なので、食や石だけではなく、この地でのびのびと幸せそうに暮らしている人たちにも焦点を当てて、観光や定住施策につなげてもらいたい。

(事務局)

- ・ 指標の取り方について、違った視点で分析できないか、研究してみたい。
- ・ 糸魚川の魅力の一つはコミュニティの強さだと考えている。人という観点も追加したいと考えている。

(委員)

- ・ 次期の新エネルギービジョンではメタンハイドレートについて触れられているのか。
- ・ 46 ページの地域づくり活動の促進に「大学連携は3校と少ない」との記載があるが、具体的にどこの大学との連携なのか。

(事務局)

- ・ 現在、担当課で第2次新エネルギービジョンを策定しているが、メタンハイドレートについては不明のため後ほど確認する。
- ・ 大学連携については、新潟大学、早稲田大学、東京海洋大学の3校と連携しており、復興マルシェ、小滝の集落活性化等にご協力いただいている。

(委員)

- ・ 新エネルギーの可能性調査は、糸魚川にとってとても重要なことだと考えている。聞いたところによると、年間340億円ほどがエネルギー収支でキャッシュアウトしている。エネルギーの生産効率でいけば、糸魚川市は全国の自治体でも1,600番台と非常に遅れている。地元の資源を使ってエネルギー化することは、多少の経費がかかっても進めた方がよい。

現在、庁内で可能性を探っているとのことだが、その段階で地元の民間企業も入れてもらいたい。地域外の業者に仕事が流れないように、地域の中で何ができるのか意見を取り入れてほしい。

(事務局)

- ・ 民間企業の意見を取り入れる方向で進めたい。

(委員)

- ・ 2 ページの子育て環境の満足度は52.4%と改善してきているが、いまだ半数の方が満足し

ていない状況である。この調査は、どのような方を対象に実施しているのか。

・0歳から18歳までの一貫した子育てと教育の推進に対して、小学生については標準偏差値しか指標がない。もう少し目指す方向性に合致した指標とした方が良いのではないか。

(事務局)

・満足度調査の対象は把握していないので、後ほど担当課に確認する。

(委員)

・46ページの日本語セミナー受講者数が増加しているが、研修会場の環境が劣悪である。また、市の関わりが弱いので、もう少し関与してもらいたい。

(事務局)

・日本語セミナーのニーズは高いと認識しているので、課題を受け止め、対応したい。

(会長)

・他にも意見があるかと思うが、意見提出用のシートも配布してもらってあるので、そちらに意見を記入して提出していただきたい。第2次総合計画の評価を市で実施しているので、それに対して、我々の目で見ると評価が甘いとか、こういった視点でもう少し掘り下げて検討した方が良いといった観点から意見をいただきたい。

(委員)

・意見シートを提出したものについては、回答をもらえるのか。

(事務局)

・回答が必要と思われる意見に対しては回答するが、基本的に次の計画につなげる評価なので、次の計画の中でその点について触れる場合もある。

(2) 第3次糸魚川市総合計画市民等アンケートについて

・企画定住課縄主査から、資料に基づき説明。

【質疑・意見】

(会長)

・市民アンケートの最終ページにあるニーズ度の分析を前回と比較することで、取組の成果や新たな課題等を見てとることができるのか。

(事務局)

・今後、重要度、満足度を前回と比較できるグラフを示す予定としている。それにより、第2次総合計画期間内の取組の成果、課題が見えてくるものと考えている。

(委員)

・アンケートの結果とは直接関係ないが、資料をカラーで作成する必要はあるのか。紙とインクを節約する方法はないのか。

(事務局)

・今回、アンケート結果を委員の皆さんから認識していただくことを優先して、カラーで印刷して配付した。

(委員)

・資料を事前送付してもらったが、送付する際に、どこをどの程度見ればよいか示してもらいたい。

(事務局)

・今後、資料を送る際には、具体的にどこを見てきてもらいたいということを明示して送るようにする。

(委員)

・地域ごとにアンケート結果を集計してもらいたい。

(事務局)

アンケートではお住いの地区も回答いただいているので、地域別での集計を行い、分析を

行う。

(会長)

・紙もデータもそれぞれ一長一短があり、どちらが良いと一概に言うこともできないので、必要に応じて使い分けてもらいたい。ちなみに、庁内や議会ではタブレット等を活用したデジタル化を進めているのか。

(事務局)

・市議会では、タブレットを導入し、資料をデータ配信する等、デジタル化を進めている。

(委員)

・デジタル化できる場所は、先進的な取組としてデジタル化を進めてほしい。

(会長)

・補助的な手段として電子データも活用できる所については、ぜひ進めてもらいたい。

(3) 審議会委員意見シートの集約について

・企画定住課縄主査から、分野ごとに資料に基づき説明。

【質疑・意見】

(委員)

・意見シートよくまとめてもらった。今後、この意見を第3次総合計画にどのようにまとめていくのか。

(事務局)

・意見シートで提出してもらった意見は全部で16分野あるが、この16分野で体系を作るのではなく、皆さんからの意見をもとに、庁内の策定委員会で構想案をまとめさせてもらう。この意見をもとに、いくつかの分野ごとにまとめて基本構想の案とさせていただく。その後、審議会委員の皆さんから見えていただきたいと考えている。

(委員)

・審議会委員から意見を聞き、市民の声を反映したということにするのか。

(事務局)

・これまでどちらかというと行政で作った計画案を審議会に審議していただくという作り方をしてきたが、今回、あらかじめ審議会委員からも意見を伺い、委員の意見を計画により反映させるようにしたいと考えている。

(委員)

・青海地域では買い物できる場所が少なく、高齢化も進んでおり、買い物難民という問題が発生している。移動販売等買い物支援の重要性が今後増してくると考え、意見シートにも書いたが、その意見が反映されていないのではないかと。

また、磯部地区で買い物ツアーという取組を始めたようだ。非常に良い取組だと思うので、他地域にも広げてもらいたい。

(事務局)

・移動販売については、現在商工観光課で担当しているため、産業分野にまとめさせてもらっている。

(委員)

・観光業は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、危機的な状況である。今回、観光分野にも多くの意見を出していただいたが、新型コロナウイルスの影響がなかなか見通せない中、今後5年、7年の計画にどのようにその影響を盛り込めばよいのか。今の段階ではとても難しく、今後、ワクチンが出てくれば劇的に状況が変わってくるかもしれない。意見はその段階で、また出してもいいのか。

(事務局)

・新型コロナウイルスの影響で新しい生活様式等、既に社会的に変わってきている部分もある。いつになるか読めないところもあるが、今後ワクチンや治療薬が出てくることで対応が変わってくるかもしれない。今後、新型コロナウイルスの影響を計画にどのように位置付けるか議論も必要だと考えるが、新型コロナウイルスの影響は一旦置いておいて考えていただきたい。

【子育て分野】

(委員)

・第1回の審議会でも説明があったが、これからの糸魚川市では少子高齢化が一番の課題である。糸魚川に若い人が来て、子育てをしてもらうためには、子育てをするための魅力が重要である。市内には、子どもを連れて遊べる場がないので、そのような施設の整備を進めてもらいたい。

子育て分野での良い点としては、以前は病後児保育しかなかったものが、病児保育ができて、仕事をしながらでも安心して子育てができるようになった。しかし、利用率が悪くなると病児保育がなくなるかもしれないとも聞いている。今後も働きながら子育てをできる環境の維持をお願いしたい。

(委員)

・子育てに関する意見では、出産体制、仕組みの話が特に出てきている。男女共同参画プランの検討にも活用させていただきたいので、委員の皆さんからより具体的な案があれば書いていただきたい。

(事務局)

・基本構想は大まかな方向性のまとまりであり、病児保育のような個別の事業については、基本計画に反映させたい。

【教育分野】

(委員)

・教育のデジタル化の流れが加速度的に進んでいる。デジタル教科書の導入についても、方向性を明記した方が良いのではないか。

(委員)

・代表的な意見の「体験教育等を通じた郷土愛の醸成」に STEAM 教育という科学、技術、工学、数学に芸術を加え統合的に学習する教育手法の観点を取り入れてほしい。糸魚川の自然環境は、科学、技術、工学、数学、芸術を体験する宝庫である。世界の先進教育のフィールドとなり得る糸魚川だと思うので、先進的な視点を取り入れてほしい。

(委員)

・委員の意見の中に、「魅力ある学校へ」とある。この意見の趣旨をもう少し詳しく伺いたい。

(事務局)

・市外の高校へ進学する生徒も増えてきていることから、市内の高校の生徒数も減少の一途となっている。そのため、市内高校の魅力化を行い、進学者を増やす取組を進めるという趣旨だと認識している。

現在、市でも高校の魅力化ということで、高校と一緒に取組を進めており、今後も継続していく必要があると考えている。

【生涯学習・文化振興分野】

・特になし

【健康分野】

(委員)

・男性の健康づくりに対する意識が低いと感じている。健康教室への参加率も低いため、男性からも積極的に参加していただけるような魅力作りや、関心を持ってもらえるようなやりがい作りを進めてもらいたい。

【福祉分野】

(委員)

・介護に限らず医療においても担い手不足が顕著となってきている。介護職は、汚い、きついというイメージを持っている人が多い。小・中・高校生の段階から介護に興味・関心を持ってもらえれば、担い手も増えるのではないかと。

【産業分野】

(会長)

・代表的な意見に「商工振興」と大きなくくりで書かれているが、これに今後何か肉付けされるのか。

(事務局)

・中心市街地の空洞化防止や賑わいづくりといった趣旨でご意見をいただいているが、うまくまとめる言葉がなく商工振興と一括りにさせていただいた。

(委員)

・企業アンケートの結果からも見て取れるが、産業界では人手不足が課題である。今後、外国人の受入態勢の整備も重要になる。また外国人を受け入れるためには、住まいも必要である。市営住宅の空室や空き家等を活用できるような柔軟な対応もお願いしたい。

【観光分野】

・特になし

【土地利用・都市計画分野】

(会長)

・糸魚川市は土地の価格が高く、市外で家を建てる方もいる。土地の価格を下げて市外流出を防ぐ取組はできないか。

(事務局)

・民間の取引価格があり、それが路線価に反映される。また、地価が下がれば個人の資産価値も下がってしまう。実際、上越市や富山県に住宅の関係で市民が流出している状況もあるようだが、市の施策として地価を下げるのは現実的には難しいと考える。

【公共交通分野】

(委員)

・身内に高齢ドライバーがいるため、高齢者の運転による事故が心配である。自分としては免許を返納してもらいたいが、車がなければ自由に出歩くこともできないため、無理に返納させることもできないというジレンマがある。

元気な高齢者の活動支援という側面からも、例えばタクシーを足代わりに使うことはできないか。自分でお金を払ってという金銭的に難しいので、実証実験として1年限定でやってみることはできないか。高齢者が元気になれば、医療費を下げることもできる。

いろいろ考えることも大切だが、思い切ってやってみるということも重要である。

【公共インフラ分野】

(委員)

・公共インフラに限ったことではないが、20年後、40年後の糸魚川市の人口規模や人口構成は推計値が出ており、その規模に合った糸魚川市のあり方を検討しなければならないと考える。産業分野についても、人材確保や人材育成だけでは賄いきれないのではないかと。

20年後、40後の人口規模から、市の産業構造や財政状況を見込んで、これからの10年間を20年、40年後のマイルストーンとして、どこまで行ってないといけないのかを明確にする必要がある。私の住んでいる木浦地区は上下水道が整備されているが、20年後はそのメンテナンスだけでも精一杯となるのではないかと。また、人口が3割減少した社会で、現在の市民の世帯収入を維持できるのか。高校生のアンケートからも働きたい仕事があるかどうか、糸魚川に残る条件となっているが、そのような仕事があるのか。そういったところのデータを分析し、分野ごとに議論したい。

また、今後どのような糸魚川市を作るのか、未来予測からのバックキャストिंगにより、課題ごとテーマごとに審議会委員でディスカッションして検討できないかと考えている。今後の進め方を検討してもらいたい。

(事務局)

・手法のご意見をいただいたと認識している。第2次総合計画でも人口減少対策と人口減少社会に対応したまちづくりを重点課題としており、次期総合計画についても人口減少問題は避けて通れないものと考えている。

バックキャストिंगでの議論もあるが、どうしても縮小傾向になってしまう。いただいたご意見をもとに今後の進め方を検討したい。

【環境分野】

・特に意見なし

【防災分野】

・特に意見なし

【地域振興分野】

・特に意見なし

【市民生活分野】

・特に意見なし

【人口減少分野】

・特に意見なし

【行財政分野】

(委員)

・行政評価の推進について、第3次総合計画の評価指標を審議会でもディスカッションし、官民協働で計画を推進してもらいたい。

(事務局)

・ぜひそのように進めさせてもらいたいと考えている。

(委員)

・将来のことを考えると公共施設のあり方も検討する必要がある。いきなり施設を閉鎖と言われても困るので、施設のあり方を検討する際には、広く市民と意見交換をしてもらい

たい。

(事務局)

・次期総合計画では、2040年を見据えた公共施設のあり方を検討する必要があると考えている。また具体的に施設の廃止等を検討する際には、広く関係する市民の方のご意見をお聞きする中で進めていきたい。

(委員)

・これからの審議会の進め方についていろいろな意見が出たが、市民アンケートを実施した理由としては、市民ニーズの調査である。ニーズの中にある重要度が未来を見る目で、20年後、40年後を見据えた不安感がこの重要度に出てきているのではないかと。この場で審議していくのも結構だが、アンケートで重要度が高い項目について集中してやる、その効果を上げていくのが重要と考える。

(委員)

・新型コロナウイルスの影響で社会がガラッと変わる可能性もある。今、総合計画をまとめて世の中が変わったら、実施計画で対応していくのか。
・総合計画は市の最上位計画である。各分野の計画との整合性はどのようにするのか。

(事務局)

・総合計画は行政の最上位計画であり、その下に個別計画があるので、必要に応じて個別計画で整合性をとる。

新型コロナウイルス対応については、今後まだまだ変わっていくものと考えている。来年にワクチンの接種も始まると聞いているので、一旦新型コロナウイルス対応は置いておき、社会の変化を捉えてどのようにしていくか議論してもらった方が、実のある議論ができるのではないかと。

4 その他

・事務局から次回会議について、3月頃に開催と説明。

5 閉会あいさつ

(副会長)

本日はお忙しい中、長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

第2次総合計画の評価や市民アンケート結果を見ると、より良い糸魚川とするためには、まだいろいろな課題があるのではないかと感じており、引き続き市民一人ひとりの意見を吸い上げていく必要がある。

今日の審議会でも多くの意見をいただいた。新たな総合計画を策定するにあたり、委員の皆さんから普段の気付きをもとに活発な議論をいただければと思うので、引き続きよろしく願いしたい。

以上